

GCN通信

年頭の挨拶 小泉武栄 理事長

今何をすべきか、今何ができるかを考えよう

私たちのGCNも5年目の半ばを過ぎ、もうすぐ6年目に入ろうとしています。この間、昨年の後半からは、吉田直隆さんに代わって、淀川正進さんを新しい事務局長にお迎えすることができました。また事務所も構えることができ、二人の職員に事務をお願いするなど、新しい体制が整いました。扱う予算も大きくなり、まさに飛躍の時期を迎えているとあってよいでしょう。

元々GCNは地生態学とGIS(地理情報システム)を車の両輪とし、両者の統合による社会貢献を目指してきました。具体的には、地生態学的に地域調査で得られた成果を、GISを通じて面的に拡大し、それを地域の把握に生かすという趣旨だったと思います。委託事業の一つ、立山や雲の平でのライチョウの生息場所のポテンシャルマップの作成、あたりはそれがうまくいったケースとあってよいでしょう。ただこうした事業はまだまだ少ないのが実情です。

新しい体制が発足したのを機会に、経営のあり方、理事会と事務局の仕事の分担、事務局の強化、などを検討し、できるだけスムーズな運営に切り替えていきたいと思っています。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。また前の事務局長吉田さんには、発足以来の長い間、たいへんご苦勞をおかけしました。心から御礼申し上げます。本当にお疲れ様でした。



今年の抱負

増澤直 副理事長

NPO法人として最も大切な点は多くの人のサポートと協働です。そこで、今年はホームページ拡充や活動報告をはじめ広報PR活動に本腰を入れていきたいと考えています。もちろん、これまでの保全活動地生態、フィールド巡検等もどんどん企画したいと考えておりますので、皆様のいっそうのサポート、参画、また賛同いただける個人、企業等のご紹介もよろしくお願いいたします。一緒に頑張っていきたいと思います！

井本郁子 副理事長

世界のそして日本の自然環境は人間社会の影響をかってないほど強く受け、日々変化しているのを感じます。野生生物とその環境のおかれている状況について調べ、生き物からのメッセージとして、少しずつでも伝えたいと思っています。

逸見一郎 副理事長

皆様お世話になっております。今、仕事の関係で月の2/3を福岡で過ごしております。そういう訳でなかなか活動出来ないの、申し訳なく思っています。今年度は、ポテンシャルマップの事業化、普及に努めたいと考えております。

GCN新事務所の紹介

GCNの事務所は昨年8月に、設立当初の青梅市から新宿区西五軒町へ移りました。東京メトロ東西線神楽坂駅から徒歩8分、JR中央線飯田橋駅から徒歩15分弱のところ。神楽坂は、現在人気連続テレビドラマ「拝啓、父上様」の舞台になっていることもあり、普段にも増して女性の訪問客であふれています。そのような華やいだ神楽坂の商店街や料亭街から外れた、中小の印刷会社や出版社とマンションの入り乱れた地に建つ4階建てビルの一室に事務所はあります。

オーナーの早川栄一さんは、地形地質を中心とした防災コンサルタントを長年勤められ、環境問題、NPOやボランティア活動に大変理解があり、小泉理事長や増澤副理事長とも永いお付き合いがあります。事務所移転にあたり破格の安い家賃で快く自宅兼事務所の一室をお貸しいただきました。

皆さん近くにお越しの時はぜひお立ち寄りください。

一ノ瀬友博 理事

私は2年目となる地域自然情報研究会の運営に尽力したいと考えています。より多くの方に参加して頂ける方法を考えていくとともに、この研究会を通じて会員数が増えていくような工夫も必要かと思っています。会員の皆さんには是非奮ってご参加頂ければと思いますし、話題提供者としてもご支援をよろしくお願いいたします。

松林健一 理事

環境分野でNPOだからできることはまだまだあります。私は主に、リモートセンシングの分野から会の活動を盛り上げていきたいと思っております。どなたか半日ESRI社にGIS特進でECP(無料でGIS講習の参加ができる自然保護団体向け支援プログラム)に行きたい方がおられましたら、事務局まで連絡をください。

淀川正進 事務局長

GCNの趣旨に賛同して、昨年9月に吉田さんに代わり事務局長になりました。事務局として理事会、会員とともに組織全体の活動のスムーズな発展と運営に力を注いで行きたいと考えています。また会員と一緒にGCN主導のプロジェクトを企画していきたいと思っていますので、皆様のご協力をぜひ宜しくお願いします。

早川さんからのメッセージ

NPO活動の根幹は「ひと」です。大きくて立派な組織を目指すのも大事ですが、何よりも「ひと」を大切に組織を作ってください。応援しています。



右から：原(庶務)、淀川(事務局長)、淀川(経理)

国連大学と交流

国連大学を訪問

昨年11月16、17日にESRIジャパン主催のGISコミュニケーション・フォーラムが東京渋谷の青山TEPIAで開かれ、GCNもGISを活用した活動を紹介するため展示に参加しました。このとき隣に、展示を出していた国連大学のレミ・チャンドレンさんと親しくなり今後さらに親交を深めるため、国連大学を訪問することを約束しました。

国連大学は、人類の平和と発展という国連の目的に学術面で寄与する国際的学術機関として、その本部が渋谷・神宮前に設置されています。現在は「平和とガバナンス」「環境と開発」の二つのテーマに集約して活動しています。

12月12日に、GCNから松林・井本・増澤・淀川と、そして学生主体の自然保護団体FANから4人の学生さんが加わって、国連大学にチャンドレンさんを訪問しました。

先ずチャンドレンさんが、ワシントン条約に抵触する希少動物や植物の違法取引の現状とその対策としての監視・管理システム（WEMS）について、多くの具体例を挙げながら詳しく説明してくださいました。次いで井本さんがGCNの活動成果である、動物相の生息状況把握のための植生図の活用についてプレゼンテーションをしました。

日本政府はワシントン条約をかなり厳しく実施しているが、その影で象牙製工芸品や希少動物がペットとして取引されている実情に関するチャンドレンさんの話は、聞いていた人達に衝撃近いものを与えました。井本さんの報告感想文と、交流会の報告をGCNにも寄せてくれたFANからの参加学生、新田一仁さん（東京大学教養2年）の感想文（抜粋）を以下に載せます。



国連大学(ロビー)

自然環境の保全と技術者の役割（井本）

「象が今でも大量に密猟されていることを日本の人々はどれだけ知っているのでしょうか？多くの人は日本とは関係のないことと思っています。しかし日本のように強い経済力を持った国の人々がわずかでも象牙製品を購入することが、遠くアフリカでの密猟につながるのです」。

レミ・チャンドレンさんのこの言葉は日本という国が担う役割と、日本人の認識の低さを鋭く指摘したものでした。また、日本でのトカゲやカメ、カエル、あるいは昆虫のペットブームが、南米や東南アジアからの違法な輸入を引き起こす一因となっていることは、皆さんも日頃感じていらっしゃると思います。しかし、ひとつひとつの違法取引をとりあげていたのでは、なかなかそのような現象を明確にすることはできません。

そこで、チャンドレンさんが国連大学でつくりあげ

たプログラムでは、このような違法な取引の流れを、世界中の組織からデータとしてあつめ、地図上にあらわすことを試みています。これにより、何が起きているかを明示し、警告を発し、将来への対策へとつなげようとするものです。システムのデータはまだ収集途中ということでしたが、アフリカからアジアにむけての違法取引の太い矢印は地図とデータが説得性のあるイメージへとつながることが実感されるものでした。

なお、残念ながらチャンドレンさんは12月末インドに帰国されました。

印象に残ったこと（新田）

チャンドレン氏は象牙の密輸やペットの密輸を例に挙げながら、「日本は、野生生物の取引に関する規制自体は政府レベルでかなりしっかりしていて、世界的にも高いレベルにあるが、国民一人ひとりの意識はとても低い。日本人は世界中から実に様々な財を多量に受け入れているが、それらがやってくる元の場所で何が起きているのか、行われているのかに対する想像力が欠如している。」とおっしゃっていました。

驚くべき事例として、今回メインだったアジアから外れますが、アフリカの象の密猟に関する話があります。

アフリカで殺された象から取られた象牙は、主に中国に入り、そこで様々な工芸品に加工されて、店頭に並びます。それらを日本人観光客や各国のVIPなどが買います。直接日本に入ってくるなくても、日本人に需要があるため、象牙がアジアに入ってくるそうです。

さらにひどいことに、これら取引の間にはマフィアが入り、象牙の代金はカラシニコフ（ロシア製自動小銃）で支払われるそうです。また、密猟者もこうした武器で強力で武装しているために、アフリカのレンジャー（国家公務員）が拳銃などの貧弱な武器で捕まえようとしても、返り討ちにあい、多数の殉職者がでているようです。

政府がいくら声高に規制を叫んでも、国として国際条約の要項を満たしていても、マーケット（経済）という領域を介して、売買対象となる希少生物の迫害、さらに地域紛争までに日本が見えないけん引役となっていること、その規模の大きさと、私たち一般国民の無知さ無関心さを突きつけられ、戦慄を覚えました。

考えれば、あらゆる国際的な環境問題、貧困問題、食糧問題etc...に先進国である日本は協力に寄与しているわけで、その構成員の一人として、その贖罪を何らかの形で果たして行く責任を感じさせられました。



アフリカゾウ

編集後記

GCN通信は再出発しました。これからは年6回、偶数月に発行します。会員の寄稿、投稿も載せて、会員に開かれたGCN通信にして行きたいと考えていますので、皆さん宜しくお願いします。（淀川）

編集・発行

NPO法人地域自然情報ネットワーク事務局
〒162-0812 新宿区西五軒町5-14 早川ビル402
TEL/FAX 03-3260-3795
URL <http://www.boreas.dti.ne.jp/~kent/gcn/>
Mail gcn-office@geo-eco.net